

シグマ研究委員会核データ専門部会核データ評価W.G. 重核データサブW.G.同時評価グループ会合議事録

日 時 昭和61年2月13日（木） 10:00～12:30

場 所 日本原子力研究所本部第2会議室

出席者 川合、村田(NAIG)、神田(九大)、松延(住友原工)、
中川(原研)

配布資料

HN-85-10 最近の測定データ (CINDA 85とSupplementから)

HN-85-11 H(n,n) 断面積の図

HN-85-12 ^{235}U (n,f) の誤差

議 事

1. 前回議事録の確認

前回（60年10月31日）の議事録を確認した。

2. 同時評価の残り作業の検討

(1) 配布資料 (HN-85-10) で最近の測定データの文献が示された。

これらのデータはSEND1では考慮されていない。これらも含めた同時評価を6月末に完了することとし、図1のような予定を作成した。

なお、 ^{197}Au と ^{241}Pu は中川委員が担当することとした。

(2) 標準データの取り扱いについてはHN-85-11でH(n,n)断面積データの現状が示された。これによると、JENDL-2のデータはENDF/B-Vと同じであり、測定データを良く再現していることがわかった。今後の方針については神田委員が3月末までに案を作ることにした。

(3) 同時評価の結果の誤差は、同時評価の結果出される誤差ではなく、評価値と測定値との差から求めた値の方が良さそうだ。

$$\Delta \sigma = \sum w_i (\sigma^{\text{exp}}(E_i) - \sigma^{\text{cal}}(E_i))^2 / \sum w_i$$

共分散マトリックスは同時評価の計算値で良い。

3. 非分離共鳴の評価

非分離共鳴領域の断面積は各担当者が進める。ただし、 ^{235}U は6月末までに評価を終了し、結果を他の評価担当者に送ることとする。7月末に会合を開き、非分離領域の断面積を決定する。さらにASREPによる非分離共鳴パラメータの決定を9月中旬までに行うこととした。

4. 非弾性散乱断面積の計算の検討

CASECISかDWUCK4を使う。10月末までに計算を終了することにしたが、具体的な作業方針は決まらなかった。

5. その他

- (1) ^{252}Cf の ν_p は 3.756 か 3.755 が良さそうであることが松延委員より報告された。これを基に、各核種の ν_p は各担当者が評価することにした。
- (2) χ は Madland - Nix の評価値が良さそうであることが神田委員より報告された。ただし、彼等のレポートからはカーブしかわからないので中川委員が Madland に手紙を出し、数値をもらえるかどうか聞くこととした。
- (3) 次回会合は5月末とする。全体会合は6月中旬に開くこととする。

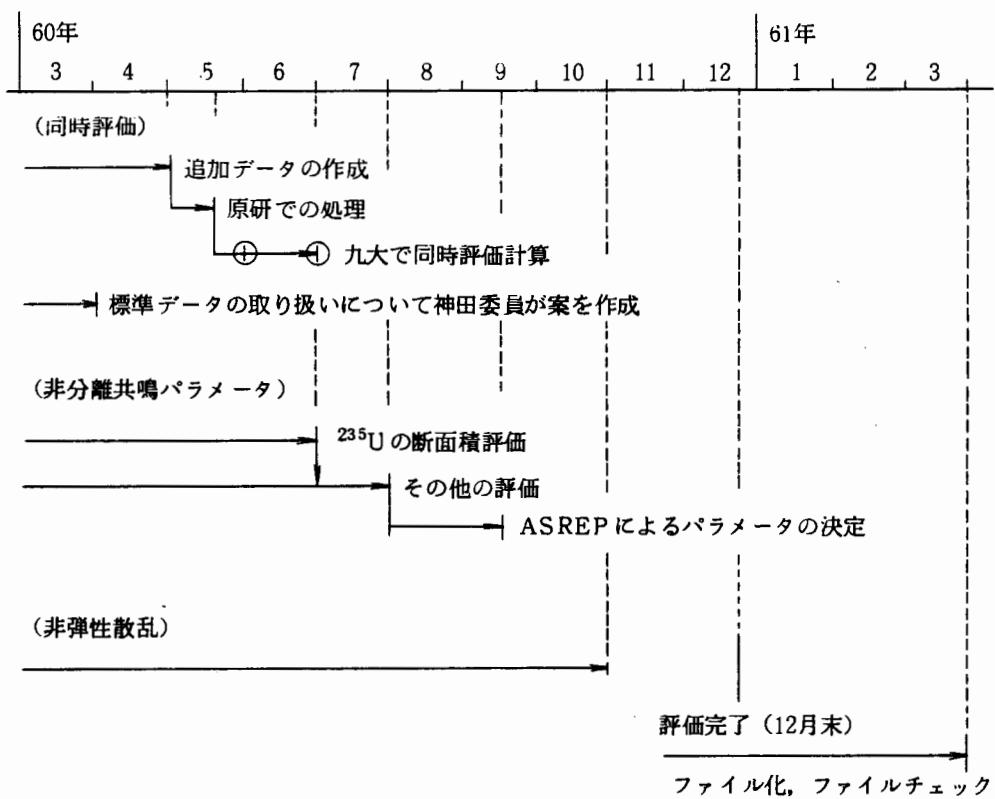


図1 今後の予定